

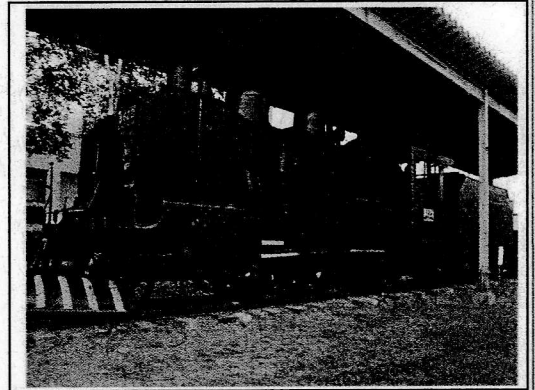
北海道拓殖鉄道 学習レポート

拓殖鉄道の秘密に迫る

1928年(昭和3年)12月25日に北海道拓殖鉄道が新得から鹿追の営業が開始した。拓殖鉄道は町の人々はもちろん、ビートなどを運び、大いに人々の役に立った。それからのこと、拓殖鉄道は鹿追から中音更間や中音更から上士幌間などを繋ぐようになり、拓殖鉄道が発展していった。

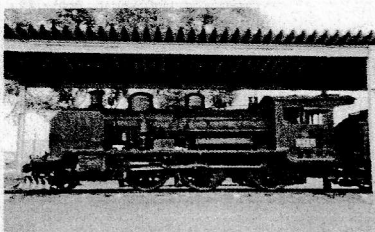
拓殖鉄道は、昔、瓜幕にも通っていた。今の瓜幕の広場には鉄道が通っていて、その頃の広場は木材の集積所であり、そこで出た木材も運んでいたと言われている。

しかし1949年に東瓜幕から上士幌間が廃止。さらに1962年の台風9号による被害で経営はますます厳しくなっていた。結局、瓜幕から東瓜幕間も廃止になり、残された区間についても、1968年7月に休止され、その年に廃止となった。



機関車の実体

拓殖鉄道はでかい！なにせ車輪の直径が1.6メートルあり、全長が15メートル以上もあった。長さが有るからには重さもある。機関車重量は48.62トンあり、炭水車重量34.33トンもある。その炭水車に6トンもの石炭をのせる。そうすると全体の重さは90トン近くになる。さらに、機関車の牽引重量は90.7トンもあり、全体の重さは200トン近くになる。その重さのせいか速度は32キロしか出ない。それでも200トンもの鉄の固まり



を水と石炭だけで動かすなんてすごい力だなと思った。

あとがき

今回、北海道拓殖鉄道について調べて見て、鹿追や瓜幕の昔の様子が詳しく分かった。今回で知ったこと、分かったことを今後の新地球学の授業だけでなく今後の生活にも生かしていきたいと思った。

